



Title	Essays on Optimal Income Taxation and Tax Compliance [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	王, 思琦
Citation	北海道大学. 博士(経済学) 甲第15880号
Issue Date	2024-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92358
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Wang_Siqi_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経済学）

氏名：王 思琦

	主査	教授	須	賀	宣	仁
審査委員	副査	教授（嘱託）	板	谷	淳	一（北星学園大学）
	副査	講師	齋	藤	雄	太

学位論文題名

Essays on Optimal Income Taxation and Tax Compliance

（最適所得課税論と税務コンプライアンスに関する研究）

本論文は、租税回避行動に関する理論分析と、個人の租税回避行動を考慮した最適所得課税問題を分析している。本論文は全4章から構成される。

第1章では、本論文の全体に関わる研究の動機、先行研究の紹介、第2章以降に分析される3つの理論モデルの概要を述べている。

第2章では、犯罪の経済モデル（Becker, 1968）を脱税に応用した Yitzhaki（1974）をベースに、脱税に対する罰金に関する顕著性（Salience）バイアスを導入した新たなモデルを提案し、これを分析している。Yitzhaki（1974）のモデルでは、所得税率の上昇が脱税額を減少させるが、この理論的帰結は多くの実証研究に支持されていないことが知られている。一方、顕著性を導入した本研究では、一定の条件下で所得税率の上昇が脱税額を増加させることが示されている。また、この条件は米国のデータを用いたカリブレーションの結果でも支持されることが示されている。

第3章では、2期間生きる個人が第1期に所得税を脱税するモデルにおける、最適所得税制の特徴を分析している。本研究では、先行研究で考えられている脱税直後に発生する非金銭的費用に加え、脱税行為が行われた次の期間に金銭的費用が存在すると仮定する。分析では、このモデルは先行研究と異なり Atkinson-Stiglitz 命題が成り立たず、最適資産税率が正になりうることが示されている。

これは、費用発生が遅れが最適税制の設計に影響を与えることを示す結果である。

第4章では、租税回避の可能性のみが異なる2つの労働部門が存在するモデルにおける、最適所得課税を考えている。個人は非金銭的費用を支払うことにより、納税回避が可能な部門に移動することができる。分析では、部門によって異なる所得税率を設計することにより社会的厚生を高めることができることを示している。これは、租税回避を比較的行いやすい部門における税控除等の制度設計を支持する結果である。

令和6年1月30日、上記の審査委員によって構成される審査委員会を実施した。本論文の審査委員会での評価をまとめると次のようになる。

本論文は、最適課税論および租税回避の理論研究に重要な貢献をなしていると評価された。各章で展開される理論モデルはそれぞれ明快で、数学的に厳密な分析が行われており、研究論文として十分に評価できるものである。特に第2章は独創性が高く、租税回避理論に非常に重要な貢献をなしていると評価された。また、第3章の元になる論文はEconomics Bulletinに掲載されており、博士号授与の要件を満たしている。

一方で、各章の理論の鍵となる仮定に関して実証的な根拠が十分に示されていない、分析結果に対して数学的な議論は十分なされているが、経済学的な念意や直感に関する考察が乏しい、文章表現に改善の余地がある、シミュレーションにおいて感度分析が不足している、などの指摘があった。ただし、これは今後の研究の過程で改善していくべきである課題であり、本論文自体の評価を損ねるものではない。

以上より、審査委員会は全会一致で王思琦氏から提出された学位請求論文が博士（経済学）の学位授与に値する水準であると評価した。